



落六小研究便り

令和4年10月25日

NO. 12

① 今年度4回目の研究授業ありがとうございました！

本日、今年度4回目の校内研究授業を行いました。協議会では「体験するからこそ思考が深まること」、「計画的に展開し、それに合わせた場づくりや声かけをすること」などの話題があがりました。1年生が今後秋とどうかかわっていくのか楽しみですね。提案して下さった低学年ブロックの先生方、授業して下さいの中嶋先生・佐伯先生、ありがとうございました。



当日のオーダーシートと併せて、細小路先生がとってくださった記録（タブレットが回収されているので手書きです。ありがとうございます。）、中田先生にいただいたプレゼンデータを以下の場所に入れておきます。併せてご覧ください。「O1校務」→「O7研究」→「令和4年」→「研究授業」→「1年授業（1025）」

② 講師の先生のお話

協議会后、校長室でのお話を共有させていただきます。

●授業改善について

Q今日の授業を改善するとしたらどんなことがあるでしょうか？

Aコンバインを進める場合、先生同士の

役割分担だと難しいですね。役割分担で行うとなると一人でできるような授業形式になり、合科授業のようになってしまいます。複数の先生で取り組むことが大事だと思いますよ。

Q今日の授業の場合、音楽の先生のところで秋の音づくり、図工の先生のところで秋のおもちゃづくり、のように進めていくと、一つで満足するような子が出ないか心配です。

A例えば3人の先生で授業を行う場合、3人が別々の役割を担うような環境をつくる必要があるかと思います。3人と関わらない限り問題が解決しないような状況



にするということです。

●11月授業について

Q5年生は「食に学ぶ」というテーマで考えています。「あえて教科書は資料集のように扱う」、「道徳や家庭科で関わりそうな単元をこの授業のまわりにマッピングする」などの工夫をしているのですが、はたしてこれがコンバインなのか？と悩んでいます。

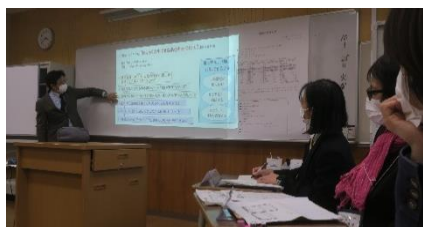
Aこの題材で、どういう問いをもつかが大切です。その問いを解決するためには、社会科だけでは足りないという状況にすることで、コンバインすることになるのだと思います。私が初めて見たコンバイン学習は、「社会・美術・ICT」がコンバインする授業でした。材料は「その町の歴史」です。町の歴史を劇化する中で衣装をつくったり、ストーリーにあわせて動画を編集したりする活動が同時に行われていきます。結果、その町の歴史をみんなで深く学んでいくという活動になるのだと思います。

Q6年生の研究授業の際、子どもがもともと持っている知識が違いすぎて、最低限学ぶべきことを獲得するだけでも、とても時間がかかるという課題がありました。それを受け今回は、「みんなで学ぶ」⇒「発展で広げていく」というスタイルで進めています。

A「そろえたら理解するだろう。」というのは先生側の発想かも知れませんが、先ほども言いましたが、どんな問いをつくるかだと思います。「～について調べ、～を考えよう」という問いを4本ぐらいつくり、一人一人の学びを積み上げていく。そうすると、先生が毎時間指導するよりも早く終わると思います。もちろん、「ベーシック⇒広げていく」という方法もありかとは思いますが、それは今までの総合でもやられていることです。「日本の食糧生産は今後どうなるか？」のような問いだと、社会科だけでは解決できない問題になるかもしれません。

Qその場合、発展で広げていく中で子どもが問いを見つけていくということもあるのでしょうか？

A「みらい科」は一つの教科なのですか？どの教科も大きな問いは先生が示します。だとしたら、ゴールフリーにはならないはずですが。私がイメージしているコンバインは横開きなのですが、下に付けていくスタイルとして考えてみるのもありかだと思います。どちらにせよ、教科発展型総合と何が違うの？という質問は出ると思いますので答えられるようにしておくといいですね。



③ 次回研究全体会について

次回は11月8日（火）に5年生研究授業になります。よろしくお願いします。